

京都市防災会議専門委員会原子力部会の結果について

1 関連報告

大飯発電所 3, 4号機の安全性向上対策の取組について【関西電力株】

- (1) 新規規制基準に係る主な対策
電源・冷却手段の確保, 地震・津波対策, 竜巻対策, 土石流対策, 火災対策等
- (2) 事故時対応能力の向上
重大事故等発生時の対応体制の強化, 緊急時対策所・免震事務棟等の整備, 教育・訓練の充実・強化

2 議題等

(1) 「京都市地域防災計画 原子力災害対策編」の修正について

- ア 原子力災害対策指針の改正（平成 29 年 7 月 5 日）に伴う修正
- イ 国の防災基本計画の修正（平成 29 年 4 月 11 日）に伴う修正
- ウ 原子力災害医療体制の整備に伴う修正
- エ 時点修正等（統計数値, 関係機関の名称及び組織改正等）

(2) 「原子力災害対策編に係る関係細部計画」の修正について

- ア 「京都市環境放射線モニタリング計画」及び「京都市水道対策計画」
 - (ア) 山間地域の水道を京都市水道事業に統合したことに伴う修正
 - (イ) 時点修正等
- イ 「原子力災害避難計画」
 - (ア) 原子力災害対策指針の改正（平成 29 年 7 月 5 日）に伴う修正
 - (イ) 避難経路図等の修正
 - (ウ) 時点修正等

(3) 原子力災害対策の取組状況について（平成 28 年 10 月～）

- ア 環境放射線モニタリングの実施結果（空間放射線量率, 水道水, 農産物, 河川水・底質土）
- イ 原子力防災訓練の実施状況（右京区京北弓削地域 9 月 24 日）
- ウ 市民啓発の状況（啓発パンフレットの配布, 講習会の実施）
- エ 防災業務関係者等に対する研修（放射線防護研修）
- オ 広域避難受入体制の整備（初期対応要員の選任及び研修の実施）
- カ 安定ヨウ素剤の予防服用体制（安定ヨウ素剤の備蓄状況）
- キ 関西電力株との安全協定の締結等
 - (ア) 「通報連絡等協定」の締結（8 月 17 日） 異常時の連絡, 損害の補償, 原子力防災対策等
 - (イ) 情報交換体制の構築（8 月 21 日） 原子力部会を活用した情報交換
- ク 大飯発電所に係る地域協議会 3 回開催
- ケ 大飯発電所に係る住民説明会 右京区京北弓削地域 10 月 6 日, 左京区広河原地域及び久多地域 10 月 7 日 3 箇所を実施

(4) 委員からの最新のモニタリング手法の紹介

3 主な意見

(1) 大飯発電所3, 4号機の安全性向上対策の取組について【関西電力株】

ア 「基準地震動を856ガルまで見直してきたので大丈夫」と説明されたと思うが、新潟中越地震は1,500ガル、東日本大震災は2,700ガルであり、856ガルだから絶対安全とは言い切れないのではないか。

⇒ 想定外に備えるよう、心がける。

イ 津波対策として、水密扉の設置やモバイル機器の設置はどうなっているのか。

⇒ 1階部分は全て水密扉にしている。モバイル機器については、全て海拔10m以上、特に空冷式のディーゼル発電機等は海拔30mの高台に分散配備している。

ウ 竜巻対策は、どういう事象を想定して行ったものか。また、配管等動脈に当たるところが、切断される恐れはないのか。

⇒ 鉄骨材が飛ばされるので、それが施設を突き破らないということを想定した対策である。また、屋外にある安全対策上重要な設備については全て対策を行っている。なお、車両もワイヤーでつなぎ、アンカーを打っている。

エ 重大事故発生時の現場職員の動きや関係業者との関わり等の対応体制が分かりにくいので、整理した方がよい。また、訓練について、ブラインドで行い、課題等を正直に積上げて、対策を講じる訓練を行ってほしい。

⇒ 重大事故発生時の対応体制図については、検討する。また、訓練は、ブラインド訓練を一般的に実施している。

オ 瓦礫の除去を想定した重機の導入は行っているか。また、地震に対して、安全余裕が最も少ない箇所はどこか。

⇒ ブルドーザーやパワーショベルを分散配備している。また、地震に対しては、通常2～3割の安全余裕を設けている。

カ 新規制基準に対応することで安全性が改善されたが、「不確かさ」に対応できるよう、想定外の幅を狭めるよう今後も努力してほしい。

⇒ 努力を続けていく。

(2) 「京都市地域防災計画 原子力災害対策編」の修正について

修正案に関する意見等はなし。

(3) 「原子力災害対策編に係る関係細部計画」の修正について

修正案に関する意見等はなし。

(4) 原子力災害対策の取組状況について（平成28年10月～）

ア 原子力防災訓練について、UPZ内の住民に加えて、避難者を受け入れる地域を含めた訓練を行うことは、放射線に対する正しい知識を身につけてもらう上で重要であり、引き続き行ってほしい。回数を重ねる毎に、スムーズな住民対応ができてきているように思う。また、大飯発電所に係る住民説明会における質問内容を教えてほしい。

⇒ 住民説明会での主な質問や要望

① 原子力に依存しなくても、電力は足りているのではないか。

② 大飯発電所がミサイル攻撃をされても、大丈夫なのか。

③ 登山者、キャンプ客等の観光客に避難行動等をどう周知徹底するのか。

④ 原子力災害が起こった場合の琵琶湖等の汚染による飲み水への影響はどうか。

⑤ 狭隘路の改善等避難経路の整備を要望する。

イ 今年度の原子力防災訓練では、自主防災会が組織的に参加し、動いていたのは、特筆すべきところであった。

ウ 台風等気象状況が悪い中での原子力災害発生時の避難対応は、どうなるのか。

⇒ 屋内退避が基本となる。気象状況が落ち着いてから、避難を考えていく。避難する場合も落ち着いて行動することが重要である。